

極秘

20部/内
15号バーネット國務次官補代理の内
話に関する件

39. 9. 15

北東アジア課

今般韓国を訪問したバーネット國務次官補代理は帰国の途次再び本邦に立ち寄り、15日午後3時エマーソン公使と同道、外務省にアジア局長を来訪、韓国情勢、韓国政府の日韓会談に関する考え方等に関し次のとおり内話した。(会談時間1時間10分)(アジア局より広瀬参事官および前田が陪席)

1. 自分は滞韓中朴大統領、丁國務總理、李外務部長官等政府要路者と極めて長時間にわたり会談した。彼らは日韓問題を政党内の争いの外におき、national matter として進めねばならないという点に見解を同じくしており、これがため野党政治家をなるべく多数日韓問題に involve させるとともに、日韓問題に関する watch dog committee を野党をも加えて組織し、そのもとで会談を進めることにより

反対派の心配を軽減させるというような方向をとることを考えていた。(韓国の本年の米作が豊作を見込まれていること、輸出が伸びていること、諸般の情勢安定化方策が成功しつつあること等は一般情勢改善の見地から明るい面であると考えられる。)

2. 日韓会談の進め方に関し韓国政府要路者は、先ず吉田元総理が近く韓国を訪問し、日本による韓国統治につき謝罪する趣旨を明らかにされるならば、その後韓国側は外務部長官を長とする代表団を日本に送り、閣僚レベルでの全面会談を再開し、一気呵成に妥結を図る。閣僚級会談開催の数日前に漁業交渉を再開し、大綱の合意に達した後、上記の閣僚級全面会談に切りかえるとの構想をもっている。

3. 韓国政府は対野党の関係から、金鍾泌のイメージが残っているいわゆる大平・金了承線の6億ドルの数字はどうしても具合が悪い、これを *supersede* し、これに *replace* するものが出て来なければならず、

これは何も金・大平了承線の実質的な変更を意味するものではなく、韓国政府が野党を納得させるための体裁が整えられればよいのであり、例えば別途話合われている漁業借款7,000万ドルをもこれに含めるようなことで違ったアピアランスもできるのではないかと考えられている。

4. 漁船拿捕問題に関し韓国政府要路者は、12
 カイリの管轄水域の外であれば拿捕しないとい
 うことを公に、明示的に約することはでき
 ないが、日本側がノムカイリの管轄水域の中
 には入らないという態度を一方的にとられる
 ならば、韓国側においても一方的な方針とし
 てその水域の外の日本漁船は拿捕しないこと
 とするところができるとの考えをもつている。日
 本側が韓国側と締結官憲や軍部は一旦捕えたる
 後、日本漁船を何故釈放しなかつたか不可
 解な事柄が困難に情概している。一旦捕えたる
 後、日本側は、日本側より、それが純粹のコーシャ
 ル・ベースの民間借款の範疇に入ること
 を確認するよういわれているのに対し、その内
 外の問題はなしにしたいので、日本側に対し
 確認の回答をしないだろうといっている。

5.

6. [REDACTED] 韓国を近代化し、これを国際
 社会の仲間とさせるのは、米国の対韓援助で
 はなく、正に日韓国交の正常化である。朴正
 熙政権を生き残らせるためにも日本側として

上述の諸点を日韓交渉に臨んで考慮に入れてもらいたく、然らざれば朴正熙政権は崩壊してしまおうべく、そうなつては日韓国交正常化のチャンスはない。そういう意味からして日本は「歴史的な賭け」に臨んでいるわけであり、一時的には謝罪使派遣という嫌な思いをしても、それによりすべてがよくなるのだから大局的な見地から対処されるよう切望するものである。

米国は日韓交渉につき arbitration 的役割を果たすよう一部の韓国人士から要望されたが、米国としてはかかる固い役割でなく、日韓双方と自由な意見交換により事実上仲だちの役をするのが適当と思う。以上に対しアジア局長より、有益な情報の供与をうけて大いに参考となり感謝にたえないが、とりあえずの感触として申し上げたいと前置して次の諸点を指摘しておいた。

(1) 2000万ドルの緊急援助の条件緩和を一方で希望しながら他方で漁船を拿捕する韓国側の態度では、会談促進のムードが害われるのみであり、まことに遺憾である。日本側の空気は韓国側のこの種の提案に対してはわが方は食傷しており、単なる言葉やヂェスチュアではなく、実際の行為として国交正常化に努力するとの誠意が示されることを期待して

いる。その意味からして拿捕防止についての提案は具体的であり、わが方における検討の対象とし得るものとする。

兎も角使節派遣や大型の会談ということではなく、緊急援助の実現、課税問題の解決、両国間交通の容易化等具体的の措置を積みかさね会談をめぐるムードを高めることが先決である。

(2) 大平・金了承線の数字を今さらいじくるとはできないと思う。元来日本の膨大な在韓資産が韓国にそのまま引渡されていることであり、大平・金了承線の金額ですら韓国にやりすぎであつたとの考え方もあるのが実情である。

(3) 吉田元総理が韓国に謝罪しに行くということは先に大臣よりライシャワー大使に答えられたごとく到底できない相談であり、仮りに謝罪するというのがごときことになつたとしても吉田元総理は最近も韓国大使に対し日本の

韓国統治による貢献を語っておられるほどであるから最もその場合に不適當な人選であろう。韓国にも国内事情があるが、日本も同様であり、そういうことが外へ洩れれば政府の命取りとさえなる。兎に角、吉田謝罪使のマイデアと大平・金了解の数字をいじくる考えは会談再開のいかなるチャンスをもトローダーするものである云々。